

早期療育プログラムを保護者が継続して実践するための支援 —スウェーデン版早期療育プログラム（Intensive Learning）を行った 症例を通して—

執筆者

高塚智行・三本紗栄・西本友美子

概要

近年、様々な早期療育プログラムが開発され、その効果について報告されている。しかし、それらは保護者への負担が大きく、家庭で継続して実践するのは難しいことが多いと指摘されている。

スウェーデン版早期療育プログラム（Intensive Learning, IL）は、応用行動分析に基づき、13領域のエクササイズから成っている。セラピストが子どもの発達段階に準じて個別の支援計画を作成し、保護者や保育士が実践できるような課題を提供する。

今回我々は自閉スペクトラム症の特性のある幼児にILを実践し、保護者が2年間継続できた症例を経験した。よって、本稿では、症例を通してセラピストが行った支援を振り返り、保護者が家庭で療育するという負担を抱えながらも、ILのプログラムを継続することができた要因について考察する。

本症例では、セラピストは、最初に保護者がILを実践できるよう支援環境づくりをし、動機づけを維持できるよう支援した。同時に、子どもを丁寧に評価し、保育園／幼稚園と協力して、保護者に負担にならないよう介入方法を修正しながら支援した。その結果、保護者は保育士・セラピストと協力しながらILを継続することができ、子どもにも成長がみられた。よって、保護者がプログラムを継続するには、子どもへの支援だけでなく、セラピストがプログラムの特徴を活かして工夫をしながら保護者支援と地域援助（保育園／幼稚園との連携）を行うことが必要であると示唆された。